

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成28年9月15日)

項 目	ページ
1 学生募集と雇用就農支援の取組について 【農業大学校】	1
2 第2回とっとり梨育種研究連携会議の開催結果について 【とっとり農業戦略課・園芸試験場】	2
3 「とっとり肉肉カーニバル2016」の開催について 【畜産課】	3
4 「平成28年度鳥取県畜産共進会」及び「畜産ふれあい祭」の開催について 【畜産課】	4
5 ベニズワイガニの解禁について 【境港水産事務所】	5
6 香港定期便就航に対応した香港での県産品プロモーションについて 【販路拡大・輸出促進課】	6
7 とっとり・おかやま新橋館の運営について 【販路拡大・輸出促進課】	7

農 林 水 産 部



学生募集と雇用就農支援の取組について

平成28年9月15日
農業大 学 校

1 オープンキャンパスの開催

7月27日(水)及び8月20日(土)に高校生等を対象に今年度2回のオープンキャンパスを開催した結果、1回目31名、2回目7名の参加があった。

- (1) 内容 午前：学校説明、校内案内、模擬講義(※2回目は午後)
午後：実習体験(1回目のみ実施、前後半に分けて希望分野で体験)
- (2) 参加者の状況
県内高校生 27名(内、農業クラブメンバー12名)
県外高校生 8名
既卒者 3名
- (3) 参加者の評価(アンケート集計結果から抜粋、項目によっては複数回答)
・参加の動機 進路の一つ 34%、どんな学校か見るため 28%、先生の勧め 17%
・実習体験 楽しかった 78%、興味を持てた 22%
・農大入学 入学希望 43%、進路選択の一つ 43%、未定 11%
- (4) その他
今後、第3回目を10月22日(土)に開催予定。

2 雇用就農相談会の開催

近年、非農家出身学生が増える中、農業法人等への雇用就農は卒業後の重要な進路の一つとなっている。また、昨年11月から公共職業訓練のアグリチャレンジ科を開設し、雇用就農希望者に対し農作業の技能習得を支援している。

そこで、求人・求職者双方の情報交換の場として、7月22日(金)に県内の農業法人等を招き、雇用就農に当たっての卒業生や経営者からのアドバイスや求人相談会を開催した。

- (1) 参加者の状況
農業法人等 29名(昨年度1回目16名)
学生、研修生等 48名(昨年度1回目は学生のみが対象で22名)
- (2) 参加者の声
・農業法人等、学生・研修生とも、年2回程度の開催希望が多かった。
・一般求職者の参加について意見を聞いたところ、求人・求職者とも異論がなかった。
- (3) その他
今後、2回目を11月30日(水)に開催予定。

※参考 (学生の卒業時の進路状況)

年度	計	就農	就職		研修	未定
			雇用就農	その他		
H27	18	2	8	5	1	2
	100%	11%	44%	28%	6%	11%

(アグリチャレンジ科修了時の進路状況)

	訓練期間	計	就農	就職		研修	未定
				雇用就農	その他		
第1期	H27.11.5-H28.1.29	18	5	4	2	5	2
		100%	28%	22%	11%	28%	11%
第2期	H28.2.10-H28.4.28	18	3	10	2	1	2
		100%	17%	56%	11%	6%	11%

※①上段は人数。

②割合の計は、端数処理のため必ずしも100%にならない場合あり。

③研修は、就農を前提とした研修。

第2回とっとり梨育種研究連携会議の開催結果について

平成28年9月15日
とっとり農業戦略課
園芸試験場

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門（旧果樹研究所であり、以下「農研機構果樹研」という。）の本県園芸試験場への一部機能移転に向け、以下のとおり第2回とっとり梨育種研究連携会議を開催しました。今後、移転に向け準備を進めます。

1. 会議開催概要

- (1) 開催日時 平成28年9月6日（火） 10:00～12:00
- (2) 場 所 農研機構果樹研（茨城県つくば市藤本2-1）
- (3) 出 席 農研機構果樹研（本部研究管理役、部門長等）、鳥取県（統轄監、園芸試験場長等）、農林水産省（技術会議） ほか
- (4) 概 要

県園芸試験場内に農研機構果樹研「ナシ育種研究拠点」が新設される旨、既に決定されており（H28.3.22 まち・ひと・しごと創生本部決定）、その整備・運営方針について協議を行った。

《確認を行った今後の方針》

①拠点の概要

名 称	鳥取ナシ育種研究サイト（仮称）	
場 所	県園芸試験場（本場内）	
施 設	[圃場] 県園試の圃場（約20a）	[執務室] 県園試の研究室
開所時期	平成29年4月（予定）	

②研究内容（当面の育種目標・想定スケジュール）

「早生種を主体とした黒星病抵抗性品種の開発」

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| H28.12～H29.2 | 播種・育苗、DNAマーカー選抜（黒星病抵抗性個体の選抜） |
| H29.3 | 苗を鳥取に移送。拠点の育苗圃場に植え付け
（以後、拠点圃場で育成） |

③今後の拠点整備・運営

- ・圃場等整備について圃场均平や梨棚設置など年内完成予定（H28.5月議会で予算承認された「果樹研究所機能移転に伴う梨研究連携推進事業」による取組）であり、今後、関連施設の改修・整備を順次行う（→地方創生推進交付金の活用を想定）。
- ・拠点運営に関する役割分担や経費負担等に関し、今後関係機関による協議を進め、鳥取への苗移送（H29.3）までに必要となる契約等を締結する。

④その他

- ・育種研究分野以外での拠点利活用に関し県側から提案（産地リレーセミナーへの講師派遣、県内農業高校生のインターンシップ等）を行い、今後、県と農研機構果樹研が協働しながら取り組むこととした。

2. 今後の取組

○同会議を定期開催し、来年4月の「鳥取ナシ育種研究サイト（仮称）」設置に向けた準備・検討を進めていく。

（→検討状況等、随時、農林水産商工常任委員会に報告予定）

「とっとり肉肉カーニバル2016」の開催について

平成28年9月15日
畜 産 課

鳥取県の豊かな自然に育まれた「鳥取和牛オレイン55」「大山ルビー」「鳥取地どりピヨ」といったブランド肉やジビエ肉などの素晴らしい「食肉」を県内外の消費者に幅広く情報発信し、実際に食べてもらうことで生産振興や消費拡大につなげることを目的として、「とっとり肉肉カーニバル2016」を開催します。

- 1 開催日時・場所 平成28年10月22日（土）、23日（日）午前10時から午後4時
地場産プラザわったいな（鳥取市賀露町西三丁目323番地）
- 2 事業主体 とっとり肉肉カーニバル実行委員会
（生産者、食肉流通業者、関係団体等の10会員で構成）

3 内容

(1)「とっとりの肉」を知る・・・知識醸成・情報発信

県産の「食肉」に関しての文化や歴史、県内での生産から流通までの取組等について、食育活動などを通じ幅広く知識を深めてもらう。

①食育活動	a 食育学習会（イベント） （7月に県畜産試験場、(株)鳥取県食肉センターで実施。 小学生親子12組25名参加）	小学生を対象に、生産農場で見た牛が食肉処理施設で牛肉に加工されるまでを知り、実際に牛肉を食べ、学んだことを「自由研究」としてまとめ、理解を深めてもらう。
②学習	a パネル展示 b とっとり肉肉クイズ	「食肉」への理解を深めてもらうため、歴史文化や試験研究機関のパネル展示及び〇×クイズ(上位入賞者へは肉関連商品を贈呈)を実施する。

(2)「とっとりの肉」を食す・・・調理・試食体験・消費拡大

各ブランド肉の試食や県産「食肉」を活用した様々な料理を提供するとともに、料理教室による調理体験などを通じて、見て味わい、楽しみながら県産「食肉」について知ってもらう。

①試食	a 県産食肉の試食 b 牛モモ丸焼き	県産食肉（牛、豚、鶏、ジビエ）の説明や紹介を行い、試食をしてもらう。
②販売	a 飲食店ブース（25店舗を予定） b 加工品等直売	各店舗の独自メニューにより、県産食肉のおいしさを体験する。（昨年出店例：和牛カルビ丼、豚肉巻きおにぎり、鳥取地どりピヨの焼鳥、鹿肉入り焼きそば等）
③料理教室	a 手作りソーセージ教室 ・手作りハム工房つくしんぼ 代表 平口氏（若桜町） b 親子料理教室（鶏肉を使った料理）	親子で楽しめる手作りソーセージ教室を開催。 親子参加型の料理教室を開催し、県産食肉に対する理解を深めてもらう。 （幼児～小学校低学年対象）
④講演会	a 「おいしく手軽にバーベキュー」 ・日本バーベキュー協会 下城会長	県産食肉を使った実演を伴う講演によりおいしいバーベキューのポイントを学ぶ。
⑤抽選会	a ブランド肉抽選会	飲食店ブースを3店舗以上利用した方の中から鳥取和牛などのブランド肉等が当たる抽選会を実施。

「平成28年度鳥取県畜産共進会」及び「畜産ふれあい祭」の開催について

平成28年9月15日
畜 産 課

1 平成28年度鳥取県畜産共進会

(1) 開催目的

県内の畜産農家が飼養する家畜を出品してその優劣を競い、家畜改良の推進、飼育技術の研鑽と生産振興を目的に開催されます。

(2) 主 催

全国農業協同組合連合会鳥取県本部、大山乳業農業協同組合

(3) 概 要

①種畜の部 (第1部 わしゅうしゅぎゅう 和種々牛の部、第2部 乳牛の部)

【日 時】10月1日(土) 午前9時30分～午後3時30分

【場 所】東伯郡琴浦町湯坂「鳥取県中央家畜市場」

【出品頭数】和牛50頭、乳牛70頭(予定)

【審査内容】年齢別等により和牛は5区、乳牛は7区に分け、体型等を比較審査する。
各区の首席には知事賞が、またグランドチャンピオンには農林水産大臣賞が授与される。

②肉畜の部 (第3部 肥育牛の部、第4部 にくとん 肉豚の部)

【日 時】11月12日(土) 午前9時～正午

【場 所】西伯郡大山町小竹「鳥取県食肉センター」

【出品頭数】和牛肥育牛40頭、肉豚60頭(予定)

【審査内容】枝肉の各部位を測定し、審査する。

肥育牛、豚肉のそれぞれの首席に知事賞及び農林水産省生産局長賞が授与される。

2 畜産ふれあい祭

食肉の安全性のPR、畜産技術等の紹介のほか、ミニ動物園の開園など、消費者と畜産のふれあいを目的として、毎年、県畜産共進会(種畜の部)に併せて開催されます。

また、当日は、県産の畜産物(食肉、牛乳、乳製品等)の即売コーナーなども設けられます。

【主 催】鳥取県畜産ふれあい祭実行委員会(事務局:(公社)鳥取県畜産推進機構)

【日 時】10月1日(土) 午前9時30分～午後3時30分

【場 所】東伯郡琴浦町湯坂「鳥取県中央家畜市場」

ベニズワイガニの解禁について

平成28年9月15日
境港水産事務所

カニ水揚げ日本一の境漁港では、9月1日にベニズワイガニ漁が解禁となり、9月12日に初水揚げを行いました。今年は、台風の影響により、出漁が遅れたこともあり、昨年より5日遅い水揚げでした。この水揚げに合わせ、境港カニ水揚げ日本一PR実行委員会により初セリ式が行われました。

初水揚げの結果

	平成28年	平成27年
初水揚げ日	9月12日	9月7日
水揚げ量	1,007箱	937箱
水揚げ金額	10,140千円	7,722千円
入港隻数	3隻	3隻
最高値	39,900円/箱	50,000円/箱
平均単価	10,069円/箱	8,240円/箱

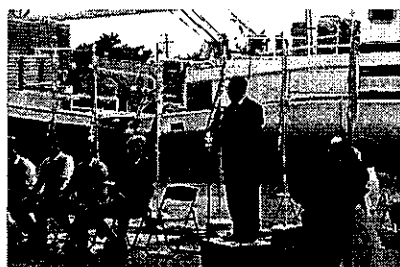
※1箱30kg

近年の水揚げ推移（1～12月集計）

	水揚げ量	金額
平成27年	8,398トン	2,306,778千円
平成26年	9,114トン	2,098,793千円
平成25年	8,912トン	1,965,625千円
平成24年	8,605トン	2,231,448千円
平成23年	8,765トン	2,330,900千円

※水揚げ量は全国1位（属地統計）

初セリ式の様子（9月12日午前7時～、4号上屋内）



境港カニ水揚げ日本一PR実行委員会
会長（越河彰統）挨拶

水産事務所長による3本締め

セリ（入札）の様子

<境港カニ水揚げ日本一PR実行委員会>

会長 越河彰統（こしかわあきのり）（日本海冷凍魚（株）代表取締役社長）

構成 生産者、荷受（三卸）、田後漁業協同組合、境港鮮魚仲買協同組合、境港市観光協会、皆生温泉旅行組合、境港商工会議所、境港水産振興協会、境港市、境港水産事務所等

目的 「境港カニ水揚げ日本一」を、各種イベント等を通じて県内外に発信。境港に水揚げされるベニズワイガニ及びズワイガニの付加価値向上、消費の拡大、魚食の普及、ひいては境港の水産業及び観光業の振興を図る。

今年度の活動

- ・ベニズワイガニかにかご漁船出漁式（8月31日）
- ・ベニズワイガニ初セリ式（9月12日）
- ・岸和田だんじり祭・城下町フェア（9月17、18日）
- ・鬼太郎カップ境港駅伝競走大会（10月16日）
- ・境港市内保育所でのカニ集会（11月上旬）
- ・JRA阪神競馬場の境港特別杯（12月10、11日）
- ・第14回カニ感謝祭（1月15日）
- ・その他、ウエルカニキャンペーンと連携したPRを実施



カニ集会（昨年の様子）

（参考）境港地域における日本海ベニズワイガニ漁船建造

- ・対象船舶：第八十八明神丸 145トン（（鳥取県漁協境港支所所属 有限会社北陽水産）
- ・建造費：約5億4千万円（税込）
- ・コンセプト

- ①冷蔵機能つき魚倉・冷却水槽導入、選別基準見直し等による「洋上での生産品質向上」
- ②市場専用上屋整備、ふた付コンテナ導入等衛生管理対策による「陸上での生産品質向上」
- ③活ガニ出荷、ブランドタグ取付け、県外量販店との直接取引等による「販路拡大」

- ・建造スケジュール：平成29年1月末～2月上旬竣工、4月操業開始

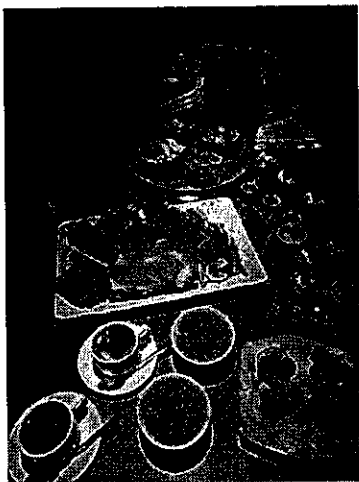
香港定期便就航に対応した香港での県産品プロモーションについて

平成28年9月15日

販路拡大・輸出促進課

米子香港国際定期便の就航に合わせ、県産品の販路拡大と観光客誘致を一体的に促進するため、以下のとおり香港で県産品のプロモーションを行っています。

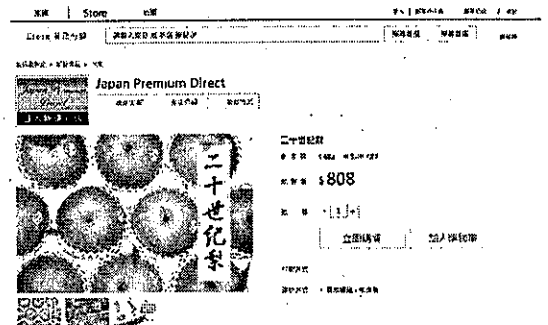
- 1 香港の焼肉レストランで「鳥取県フェア」を開催（9月1日～30日）
 - ・JA全農とととりが中心となり、全農グループが運営する香港の焼肉レストラン2店舗で「鳥取県フェア」を開催。香港に初輸出した鳥取和牛のほか、白ネギ、ねばりっこ、二十世紀梨、きぬむすめ、地酒も特別メニューで提供し、「食のみやこ鳥取県」をPR。
 - ・店内には定期便就航のポスターや観光パンフレットも設置し、観光PRの場としても活用。
 - ・9月1日には現地メディアを招いて試食会を開催し、フェアと鳥取県観光の情報を発信。
- 2 「ABCクッキングスタジオ」で梨スイーツ教室を開催（9月10日～10月9日）
 - ・中秋節のギフトとしてだけでなく、一般消費へと現地需要を拡大していくため、昨年に引き続き、二十世紀梨を使ったスイーツ教室を実施。調理体験を通じ、県産梨の固定ファン拡大も促進。
 - ・受付開始初日(8/31)だけで60人から申込みがある人気ぶり。(昨年度受講者約600名)
 - ・店内には定期便就航のポスターや観光パンフレットも設置し、観光PRの場としても活用。
 - ・9月9日に現地メディアを招いて体験会を開催し、二十世紀梨のPRと鳥取県観光情報を発信。
- 3 香港のECサイト（インターネット通信販売）での県産品販売（9月以降順次出品予定）
 - ・香港からの観光客が鳥取で味わった県産品を香港から取り寄せられる仕組みとして、ヤマト運輸と連携し、ヤフー香港のショッピングサイトに県産品の出品を開始。（二十世紀梨）
- 4 香港航空の機内販売誌での県産品販売（7月～9月）
 - ・香港航空の機内販売誌「TO HOME」（機内で注文し自宅へ宅配してもらう購入形態）の7～9月版に県内の酒造メーカーの日本酒及び梨リキュールを掲載中。



焼肉レストランで提供している「鳥取御膳」（2人前 約25,000円）



ABCクッキングスタジオでの体験メニュー「鳥取二十世紀梨とりんごのシフォン」



Yahoo!香港内のショッピングサイト「Japan Premium Direct」に出品されている二十世紀梨

とっとり・おかやま新橋館の運営について

平成28年9月15日
東京本部
販路拡大・輸出促進課

鳥取県と岡山県の共同アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」が来る9月28日に2周年を迎えるので、約2年間の運営について次のとおり報告します。

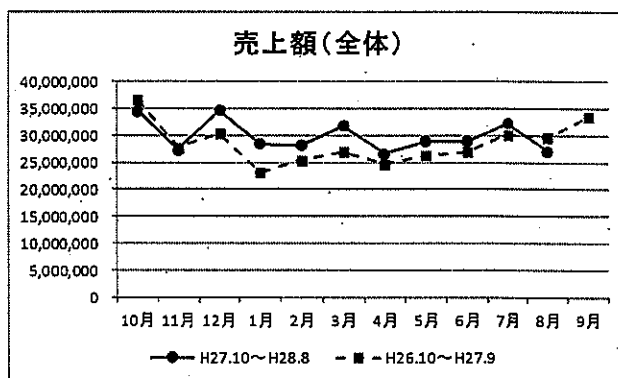
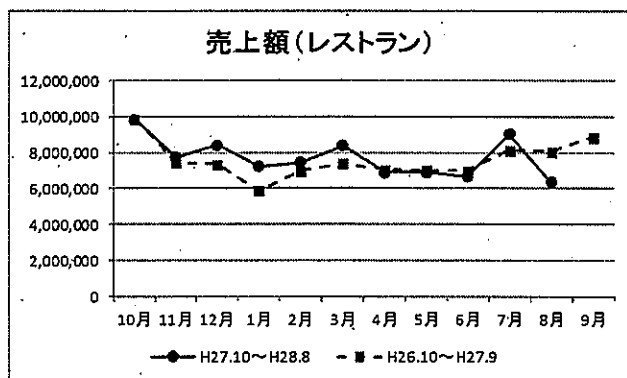
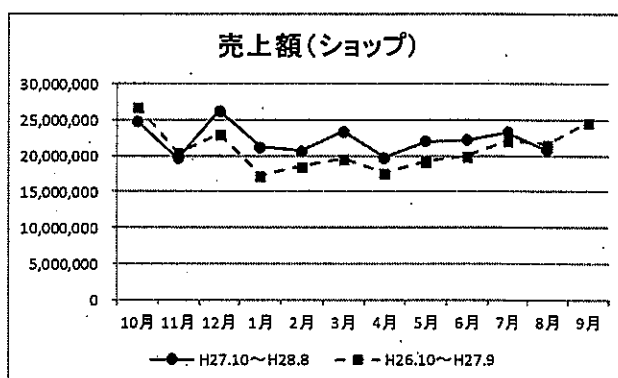
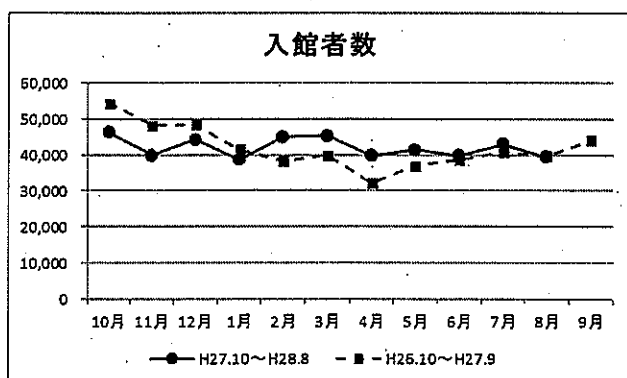
1 運営状況（運営事業者：株式会社稲田屋本店）

(1) 入館者数：975,159名（H26.9.28～H28.8月末）

（H27.10月～H28.8月（11ヶ月）：463,124名、H26.9.28～H27.9月（12ヶ月）：512,035名）

(2) 売上金額：677,358千円（ショップ：500,229千円、レストラン：177,129千円）（H26.9.28～H28.8月末）

	売上金額		対前年比 (10～8月)
	H27.10～H28.8	H26.9.28～H27.9	
ショップ(物販)	244,113千円	256,116千円	108%
レストラン(飲食)	85,059千円	92,070千円	104%
計	329,172千円	348,186千円	107%



(3) 取扱品目数 ※H28.7月末現在

鳥取県：955品目（生鮮品 105品目、加工食品 616品目、非食品 234品目）

岡山県：840品目（生鮮品 79品目、加工食品 693品目、非食品 68品目）

(4) 催事スペース等の利用日数

		H27.10～H28.8	H26.9.28～H27.9
プロモーション(1F)	利用日数	216日	266日
	うち鳥取県関連	118日	167日
催事スペース(2F)	利用日数	241日	215日
	うち鳥取県関連	119日	115日

(5) 観光・移住コーナーにおける相談実績

		H27.10～H28.8	H26.9.28～H27.9
観光相談件数	利用日数	986件	872件
	うち鳥取県関連	608件	523件
移住相談件数	利用日数	125件	135件
	うち鳥取県関連	48件	44件

(6) ビジネスセンターの長期利用契約件数：9社9ブース利用（うち鳥取県3社3ブース）

2 取組状況

鳥取県を体感していただくイベントなどを実施し、多くのお客様に鳥取の魅力を知っていただくとともに、首都圏のメディアを通じた情報発信により、県産品の認知度向上や鳥取ファンの拡大に取り組んだ。また、観光・移住コーナーを設置し、観光や移住の相談に対応した。

(1) 県産品、観光の情報発信等

県産農産物のブランド形成や販路拡大、観光PRを目的として、メディア露出効果の高いPRや消費者向けのイベント等を実施した。県産品やアンテナショップでのイベント、観光情報などが、約2年間で、テレビ56件、ラジオ21件、新聞125件、雑誌38件等多くのメディアに取り上げられ、また、アンテナショップでのすいか、二十世紀梨などの県産農産物の販売も伸びるとともに、リピーターも着実に増えた。

[主な取組例]

○「特選とっとり松葉がに五輝星」祝★全国最高値記念セレモニー (H27. 11. 12)

知事、タレントより、五輝星全国最高値をPRした。[タレント：木佐彩子さん、U字工事さん]

○野菜ソムリエセミナー (H27. 7, 8, 11, 12月)

日本野菜ソムリエ協会と連携して、レストランや青果店などの実需者を対象としてセミナーを年4回開催した。また、一般消費者向けに、セミナー開催と連動して農産物の試食宣伝会を実施した。

○鳥取の梨試食販売会 (H27. 8. 26)

梨新品種「新甘泉」「なつひめ」の紹介と、食べ比べを実施、2つをセット商品として販売した。

○蟹取県ウェルカニキャンペーンメディア記者会見 (H27. 8. 18、H28. 8. 31)

知事、タレントによる「蟹取県宣言」、トークセッション等によるPRを行った。[タレント：H27 押切もえさん、安田大サーカスさん、H28 山口もえさん]

○鳥取のスポーツ、文化を楽しむイベント

鳥取県出身の落語家による「新橋館寄席」や、ガイナール鳥取の岡野ゼネラルマネージャーや相撲力士の石浦関など、鳥取ゆかりのスポーツ選手を招いてのイベント等を実施した。

○商工団体や市町村のイベント、他県連携イベント

「とっとり・おかやま物産展」(両県商工会連合会)や、「だいせん-おおやま 食の饗宴」(大山町)、日野町特産品フェア、「香川・愛媛せとうち旬彩館」と連携した「地酒と地魚フェスティバル」、中国四国9県のアンテナショップの連携イベント「ご当地珍味グランプリ」等を実施した。

(2) 観光・移住コーナー

窓口相談員を配置し対面での対応を心掛け、また平日仕事を持つ相談者が参加しやすいよう、移住定住相談会を毎月、休日や平日の夜に実施し、利用者やリピーターが増加、移住・誘客に寄与した。

(3) 販路拡大

チャレンジ商品制度(県産品のテスト販売)を活用し、テスト販売をした結果、多くの商品がアンテナショップの定番化につながった。(チャレンジ商品制度が始まったH27. 2月からH28年7月の間、61社165商品のうち、66商品が定番化した。(定番化商品例：「田中農場白ねぎぼん酢」(有)田中農場、「美德自然薯入ごぼうチップス」(みささゆけむり家さん)) また、三越伊勢丹などの首都圏百貨店やスーパー、食品の専門店のバイヤー等への県産品の紹介及び商談の場として活用し、鳥取県フェアの開催など、販路拡大に寄与した。

3 委託期間について

「とっとり・おかやま新橋館」の運營業務委託契約は、平成26年6月19日～平成29年3月31日までであるが、委託業務を適切かつ効果的に履行していると両県が認めるときは、委託期間を平成31年3月31日まで2年間延長することとなっている。

運營業業者である株式会社稲田屋本店は、委託業務を着実に遂行し、より効果的に業務を向上させていることが認められ、継続して運営する意欲もあることから、両県で協議したところ、契約期間を延長することとした。